

「家がいいね」 第197号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2020.10.1



私たちはこんなにも忘れやすいのか

絆（きずな）という言葉を、覚えていますか。

東日本大震災から9年。大津波の被害をTVで目の当たりにして、共感を示そうと広がりました。

しかし放射線被ばくという目に見えない人災が加わると、強制避難を余儀なくされた人々へ差別や、食品への風評被害も蔓延してしまいました。

鎌田實さんの支援と共感の言葉を思い出します。放射線被害に対して「絶対的にマルとか、絶対的にバツとかはない。マルに近い三角を探すしかない。家族構成や仕事で、そこに居ざるを得ないのなら、健康のためにどうするかを考える」と。

こんな貴重な体験をしながら、コロナ感染という目に見えない災禍が、再び人々を疑心暗鬼にさせています。これも生活を分断させる人災ですね。近所1号になりたくないという不安は、際限なく自分の身の周りを委縮させます。一人一人の覚悟で行動する力を持つしかないのではと思います。

「芸能人」はそんなに近い存在なの？

「ショックでした」と

コロナの不安を煽られたり、生きる気持ちを揺さぶられたりと言っ

人々が結構おられます。でも、本当に近い人と同じでしょうか。

芸能人は名前や生活の一部を、ある意味TV雑誌で衆目に晒されなければなりません。嘘も取り混ぜて、プライバシーを差し出しているのでしょうか。

もし彼ら彼女らの実家族でしたら、そっとしておいて欲しいと思うでしょうし、一般人でしたら、実名や写真は控えられる権利があると考えます。

お写真をお借りしましたが、黒塗りで目を隠すことにいたしました。ご冥福を祈るばかりです。

さて、身近にいる人のことより遠くの人を気遣うことを、昔の人は輝く月を見ながら想像の世界で、慮（おもんばか）ったのですね。情報過多の現在では、次々と風評やフェイクニュースを探る傾向が当然とされ、「こころ穏やかではありません。

中秋の名月を、日常の中で仰ぐ

月が上がってきました。

遠くの往診に出てみる

と帰り路に、このような

風景の贈り物がありました。

こんな時は、すこし

幸せな気分になります。

病院では死を待つこと

に過敏になります。在宅

では、その時まで精一杯

生きられることに、日々

気付くと言葉にされます。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可